

○委員長

ただいまから第9回静岡県社会教育委員会を開催いたします。

昨年度末に、2月までのこの委員会の会合の中身を検討するワーキンググループを開催しまして、そこでまとめつつあるものを本日の議題としております。

本日も、様々な角度から御意見や御質問等、いろいろ忌憚のないものをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

今、9回で、あと10、11、12と残り3回になって、今まで皆さんにいろいろ出していただいている意見を、まとめた形の報告書にしていかなければならない時期となっておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の次第について確認をします。

最初に、事務局から令和8年度県社会教育課所管事業について説明を行います。これは、年度初めにいつも行っているものとなります。

続いて、第8回社会教育委員会と、3月末に開催しました第3回ワーキンググループの概要を報告いたします。

次に審議に入りまして、まず、報告書の作成に向けて、その骨子についてイメージを共有します。その後、審議の柱（1）の最終確認を行います。前回、皆さんからいただいたアイデアを基に、さらにワーキンググループで整理したものを確認していただき、合意形成を図りたいと考えております。

次に、審議の柱（2）の前回の審議のまとめについて、事務局の資料を基に確認を行います。

その後、今回のメインである審議の柱（3）「人と活動情報の橋渡しを促進する仕組みや、きっかけを生み出すための方策」に関して、御意見をいただければと思います。

最後に、今後のスケジュールについて共有したいと思います。

委員の皆様の御協力の下に円滑に会を進行いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ここから、事務局に報告をお願いしたいと思います。

○事務局

報告に入る前に、資料1を御覧ください。

先ほど、委員長が紹介してくださいましたように、例年、年度初めの会で、教育行政の基本方針と教育予算の社会教育課関連事業について説明をまいりました。しかしながら、皆様は、昨年、大枠について把握をしていただいておりますので、今回は書面での確認とさせていただきます。よろしく願いいたします。

次の報告に入ります。お手元の資料2を御覧ください。

第8回社会教育委員会では、令和8年度社会教育関係団体への補助金の交付について説明し、その後、委員から質問を受けました。

次に、第8回社会教育委員会の概要について報告をしました。その後の審議では、3つの役割の可視化と連携強化策について委員の意見を受け、資料の表現を県民に分かりやすいように修正しました。また、「多様な主体との連携の中でも、特に企業との連携を強化する方策」について、各委員から御意見をいただきました。皆様からいただいた御意見は、資料4に整理いたしました。

以上です。

○委員長

ただいまの報告について、御意見等ありましたらお願いします。

第8回の委員会の状況を受けて、ワーキングも進めておりますので、ワーキングの開催結果も見ていただいて、御意見いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員長

次に、第3回ワーキンググループの開催結果について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

お手元の資料3を御覧ください。

第3回ワーキンググループでは、まず、諮問題に対する報告書の作成に向けて、これまでの審議内容を基に、報告書の骨子について検討をしました。

骨子案は、資料3に整理しました。

その後は、3つの人材の役割及び活動の見える化について、前回、いただいた意見を基に、より誰にでも理解しやすいように表現を整えたり、図式化したりしました。

これを、資料4に整理してございます。

資料3と資料4の詳しい説明につきましては、審議に入ったところでお伝えいたします。

○委員長

こちら、この後、審議のところで皆さんによく見ていただきます。こちらで、ワーキングに出たメンバーもいろいろ補足等すればいいかなと思っていますので、よろしいでしょうか。

○委員長

早速、審議に入りたいと思います。

まず、(1) 第39期社会教育委員会報告書骨子案についてです。

先ほども、事務局からありましたのは、ワーキングで案として資料3を作成いたしました。

事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、お手元の資料3を御覧ください。

今回、作成しました骨子案は5つの章で構成しております。

第1章は、多様な社会教育人材の整理です。第1回から第3回委員会での議論に基づきまして、社会教育主事等の専門職に限定せず、地域住民、企業、NPO、学生までを広く人材として定義します。また、意欲、態度と知識、スキルの4象限図を用い、地域に眠る人材の現状を可視化する仕組みを整理します。

第2章では、地域における社会教育を担う人材の現状調査と課題分析。第5回及び第6回で共有した実態調査の結果を反映します。特に、役割に対する認識が作る人に偏り、広げる人や支える人の認知が不足している点や、企業連携における理想と現実の大きな解離といった、本県の課題を明らかにします。

第3章では、地域を支える3つの人材の見える化について、県民目線でまとめます。特定の人に負担が集中する1人3役からの脱却を目指し、できる人が、できるときに、できることをというマインドセットを底に据え、平易な言葉を用いて、誰もが参画できる役割の引き出しを提案いたします。

第4章では、第8回で重点的に議論された、企業との連携強化を柱に据えています。企業を単なる支援者ではなく、地域社会の持続可能性を支える社会教育の当事者として捉え直し、専門性を生かした共創モデルの在り方を提示していきます。さらに、本日審議する、活動情報の一元化とスキルマッチングを促進する仕組みの可能性について、記述する予定です。

この骨子案の構成について、皆様の御意見いただければ幸いです。

事務局からは以上です。

○委員長

基本は、これまでの委員会での皆様と検討を進めてきたものを、ある意味、まとめていく方向を考えております。

今期の委員会では、調査も行っていますので、調査結果を２章に入れて、それを基に、皆様のグループワーク等から、３つの人材を検討しましたので、その見える化とともに、話合いの視点として３つ挙げてきたところ、そこで話合った結果は第４章で示すことで、私たちが議論したことが全て表せるように考えています。また、より具体の形で、これを読んだ方々の活動の参考となるような報告書にしたいと考えております。

全てが県民の一般の方にというだけでなく、第４章は、どちらかと言うと社会教育行政関係者ですか、そういう方たちに読んでいただいて、人材活用とか人材の捉え方を再確認していただけるような形になればいいかなと考えております。

逆に、第３章は、行政の方に活用していただきながら、広く県民の皆さんに、社会教育への関わり方っていろんなものがあります、ぜひ、できるところをできるときにどうぞという形のPRができるようなものが提示できたらと考えております。

この骨子案について、何かありますでしょうか。

今日の議論などで、また、いろんな御意見が出た場合は、まだ案ですので、修正は可能な部分となります。大体、こんな感じかなとイメージをしていただければと思います。

○委員

今、整理されたもので、すごく、前回、前々回とみんな言いたい放題というか、思ったことを全て取り入れていただいて、まとめていただいて、ワーキンググループの皆様方には、大分、すっきりして、私たちが目指すものが可視化されてきたなというイメージがしているところです。

その中で、改めて、こちらを見させていただいたときに、資料４の表とも連動する部分ですけど、特に資料４の左側、こちらの軸が、「こんな人、こんなこと、心がけること」という順番で左が書いてあって、それに対して根っこにある考えというか、例えば、これってキャッチコピーのようなイメージになるかと思うのですが、私たちが考えた順番的には「人、こと、心がけること」の順番で定義してきたものが、根っこにある考えになると「できること、こと、人」というキャッチコピ

一の並び方になっているので、もしこの辺りの連動性というか、発信するときの分かりやすさを頭に置くのであれば、「できるときに、できること、できる人とする」を、「こんな人」が最初に出るとするならば、「できる人と、できることを、できるときにする」という並びのほうで、もしかしたら、一覧表に添ったキャッチコピーとして扱いやすいのかなと今思ったので、発言させていただきました。

○委員長

この部分は、またワーキングでも検討したところがあって、後でまた説明します。

○委員

はい。

○委員長

では、議論が進む中でコメントいただいても構いませんので、(2)(3)、これ以降に審議の時間を取りたいので、次に進ませていただきたいと思います。

それでは、(2) 社会教育における3つの役割及び活動案を、資料4のとおりに提示しました。ワーキングで検討した結果です。皆さんの御意見をいただいての修正案になります。

では、事務局から説明をお願いします。

○事務局

では、御説明します。お手元の資料4を御覧ください。

第8回でいただいた意見を基に、「心理的ハードル」等の少し堅い言葉を廃しまして、「こんなことをこんなふうに」といった、日常的な表現に変更しました。特に、「支える人」については、押しつけにならないように、「見守る」とか「目を配る」といった言葉を選びました。また、「根っこにある考え」も横断する形で下に配置しまして、「できる人が、できるときに、できることをする」という表現をワーキングの中で話し合いまして、人のつながりや、協働を強調する狙いで、「できるときに、できることを、できる人とする」に変更をいたしました。

では、資料の裏面を御覧ください。

先ほどの表のイメージを図式化して、より県民に伝わりやすいように作成をいたしました。

3つの役割をベン図で表現し、状況に応じて役割が重なり合うグラデーションを表現しました。

また、「どれか1つでも当てはまれば、あなたも社会教育人材です」というメッセージを上部に配置することで、特別な活動をしていなくても、既に社会教育人材の一員であるという気づきを促す構成にしました。

本日は、この案をベースに議論を深め、最終的な合意まで進めていきたいと考えております。

説明は以上です。

○委員長

皆さんの意見をベースに第8回のワーキングで検討したところで、この結果に落ち着いたので、ワーキングの委員のお二人から補足いただければと思います。

○委員

もともと委員が示された「できる人が、できるときに、できることを」という地域活動の中で大切にされたこの言葉を、委員の皆さんも大切にしたいよね、ということだったんですが、「つながり」をどう表現するかというワーキングでの議論の中で、「できる人と」という表現を加えてみました。さらに、もうちょっとシンプルに「できるときに、できることを、できる人と」となりました。

個人的な意見ですが、最後の「する」という言葉がびったりなのか、御意見をいただきたいです。

私は、根っこにある考えとしては、「できるときに、できることを、できる人とともに」というようなつながりを意識してほしいと思います。1人でこの役割をとるか、できることをやりましょう、ではなくて、つながっていくんだという意味合いを強くするために、「できる人とともに」という表現でもよいかなと思います。

補足と、加えて意見でした。

○委員

社会教育人材という言葉のハードルを低くすることが大事で、一番上の、どれか1つでも当てはまれば、あなたも既に社会教育人材、もう社会教育人材なんです。そういうところで、上の文章は訴求力があるのではないかと考えました。

そう難しく考えなくていいよという図ですから、優しく優しく、訴えるというよりも、語りかけるような文言を並べるといいのではないのかな。その気になってもらう、それが大事かなと思って、皆さんの言葉の中から、このような図を作りました。

○委員長

私からも、最後のところ、委員からは、「できる人と」が最初でというコメントもいただいたんですが、ワーキングのときに、とにかくこの図を見て、どこか少しでも引っかかるものがある人が、社会教育活動に入ってきてくれればいいなと思うと、「できる人が」と最初に言っちゃうと、まず、自分ができないと思う人は、そこで、私は関係ないとなっちゃうねって。やっぱりつながりなので、「できる人と」。だから、「と」なんです。

私ができるできないではなくて、私1人がやろうとするのではなくて、私のちょっとした力を誰かと一緒に使って、何かしたらいいかしらみたいな気持ちになるんだったら、「できる人」は後のほうがいいかなって話になって。それで、「できるときに、できることを」。

今、委員が指摘してくださったように、「する」と言うと、また、私はしないみたいな反発が来るかもしれない。「できる人とともに」となれば、それを否定するところまでのパワーはそうないだろうから、それなら、私も何かちょっとは絡めるのかしらみたいな気持ちになるかなというので、この順番と「できる人と」という表現を考えました。

なるべくそういうふうで取っかかりやすい、ある意味、いろんな状況を想像できる表現。こうでなきゃいけないとか、こうしなきゃいけないなら、これなら駄目でしょみたいな選択肢にならないような言い方等を気にして、前回の案から、こちらの表現に変えたところです。

黒ゴシックも動詞で終わるようにして、その説明も、「こんな人」以外のところは動詞で終わるような表現に統一をさせていただきました。

以上のように、この案を作りました。裏面も、ベン図が3つ重なってるほうが、混ざり合ったところに入るような人が自分を捉えやすいかなということで、こちらの図にしてあります。

事務局、中国語っぽい字が入って。まだ、修正してないところですね。

○事務局

おっしゃるとおりでして、生成A Iで幾つか画像を作ったのですが、どうしても一部、文字化けをしてしまうところが出てきます。実際、今回のものはイメージでして、こういう形でと決まれば、県では細かいところまで最終的に詰めることができるA Iも使えますから、最後はそちらで仕上げていきたいと考えております。

○委員長

それでは、皆様から御意見いただければと思います。皆さんが前回言ってくださったものが反映されていないとか、ワーキングでの修正、ここはこちらのほうが等、御意見がございましたら、お願いします。

○委員

今、ワーキングの皆様方の思い、つながりを強調していく部分において、あと、委員が言ってくださったように、「できる人とともに」という部分で、1人でやるのではなくて、みんなと一緒に自分ができるところをやっていきましょうというイメージであるならば、根っこにある考えの部分、「できるときに、できることを、できる人とともに」という形で伝わりやすいかなと思った次第です。

ただ、もう一つ、こういうふうに出てくると、もしかしたら圧が強いかと思う部分が1つありまして。それが、裏面の「どれか1つでも当てはまれば、あなたも社会教育人材です！」が、もしかしたら、ちょっと強いかという感じで。

例えば、社会教育人材と呼ばれたいのか、呼ばれたくないのかの部分ですね。社会教育人材というと、あたかも社会教育士とか、資格保有者がきっちり何かをやるイメージが出てしまって。そうすると、もうちょっと緩く、柔らかく、みんなで一緒にという、こちらの裏面の表のような、ともにつながりながらであると、社会教育の仲間ですみたいな、社会教育メンバーですとか、ともに社会教育をやっていけます、いきましょうみたいな。ここも六文字熟語ではなくて、私も仲間なのねみたいなイメージ。自分がやってることが、社会教育なんだとあまり意識しなくても頑張ってる方にとっては、そこら辺、柔らかくしてもいいのかなと思いました。

○委員長

今のことに関連してでもいいですし、ほかのことでもいいので、いかがでしょうか。

時間ももったいないので、一言ずついただいてもいいですか。

○委員

私も、委員と同じところで、うーんと思っていたので、皆さんのお話を聞いてスッキリしたので、特に意見という意見はないですが。委員がおっしゃったように、「できる人」とするより、「できる人とともに」とか、本当に、全体的にゆるっとしてほしいというイメージがあります。かつちり

はなくて。そのくらいです。大した意見ではないですが。

○委員

今、皆さんのお話を聞いていて思ったことが、資料4は人物から始まっているので、どんなことができるのかっていうところが始まりでもいいのかなと思います。また、社会教育関係の方は、直接お会いすることを大事にされている方が多いのですが、事情から必ず現場に行けるとも限らないし、直接会えない場合などあると思いますので、オンラインとか色々な「会う」方法があってもいいと思います。

○委員長

そうですね。いろんな状況の方がいるので、直接会うのが最適かどうかはケース・バイ・ケースだということですね。

○委員

これまでの多様な意見をしっかりまとめていただいて、ありがとうございます。

通しで見ると、また、改めてそのキーワードに目が留まったりするもんだなと感じてるところです。

具体的な体験談を先に差し挟ませていただきますけど、ちょうど昨日、地域の交流センターのある講座に参加をしまして、そのセンターでも、初めてその先生を呼んで開催するという講座でした。次回、その先生が、同じ焼津市内ですけど、結構、離れた交流センターで2つ目をやる。その反応を見て、定期的の実施できるかどうか、様子を見てるような状況だったんだと思うんです。ちょっと離れたところでやるんだけど、ぜひ御参加くださいと言って、交流センターの方がチラシをまいてくださったときに、集まった方は、お友達と来た方もあったけど、私は1人で行ったので、ほとんど全員初対面だったんですけど、どうする、次回出るとか、行ってみるという誘い合いの声があちこちで起こって、それがすごくいいなと思いました。

それが、ちょうど昨日のことだったものですから、「その学びの場を広げる」に、私、目が留まりまして。「心がける」のところに、「身近なきっかけを言葉にする」が出てくるんですけど、送迎や見守り等と書いてありますけど、誘い合いというか、行ってみないという声がけて、すごく広げるのに重要な一言だなと感じたので、そこら辺も追加していただけるといいかなと思いました。

○委員

今日、午前中に、富士市の社会教育委員さんがこんなチラシを持ってきました。小学生の4年生から6年生を対象にいろんな活動を組んでくださったんですけど、この中には、子供たちのやってみたいが詰まっていました。こちらのワーキングでたくさんまとめていただいたんですけど、すごい大変だったなと思います。ありがとうございます。

「想いがある」「想いを拾い上げる」に、「やってみたいに気づく」があるんです。まさに「想い」は、子供たちであったり、地域の人だったり、関わる人だったりの「やってみたい」という気持ちなのかなと思うと、「想い」となると、ちょっと堅いかなと思うので、「やってみたいがある」というような表記の仕方でもいいのかなと思いました。

先ほど、「どれか1つでも当てはまれば、あなたも社会教育人材です」が、「社会教育やってみよう」とかでもいいのかな、「あなたも私も、社会教育やってみよう」とか「チャレンジしてみよう」という投げかけでもいいのかなと思うのが1つと、「役割のグラデーションを大切にしています」が、上になるよりも、もしかしたら下のほうがいいのかなと思います。たくさん動詞の「つながりが楽しい」とか「ともに広げる」があるんですけど、少し多く感じます。もう少し見やすく、文字を柔らかくするか、字体を変えとかするとうれしいのかなと思います。

そして、「できる人とともに」は賛成です。

○委員

私も同じ意見ですが、根っこのところで、「できるときに、できることを、できる人とするよりも、「ともに」のほうがいいと思います。

そして、文字が並んでいるグラデーションの絵ですけど、文字だけではなくて、何かデザイン性のある形で、こんなことも、あんなこともというイメージで配置ができると、もっとゆるっとした感じで、誰でも参画できるイメージにできたらいいかなと私も感じました。ただ、それがどういう表現かなというのは、今はぱっと思いつかばないので、また思いついたら発言します。

○委員

私も、拝見していて、家で見えていたときには、「できる人とする」でいいのかなと思ってたんですけど、今、「ともに」という単語をいただいて、そのほうが思いを伝えやすいのかなとは思いました。

私事ですけど、私、3月に退職をしまして、本当はこの場にいるのが申し訳ないかなと思うんで

すが、県の方から、終わりまでいいよとおっしゃってくださったので、4月からは、一般人としての意見を言わせていただくことになるのかなと思いますけど、今までいた職場が、特に社会教育にすごく関わっていて、そこで社会教育について熱い思いを持ってくださっている方とお会いする機会もすごく多かったんですけど、いざ、そういう場から離れてみると、自分で何かしようかなと思っても、なかなかそういう場が見つからないなど。

退職したばかりで、まだお元気だけど、今まで企業でお仕事することに一生懸命だった方が、いざ辞めてみて、何の肩書もない、何の組織にも属していないとなって、何かやってみようと思ったときに、気軽に入れる場所を見つけるのも難しいし、そう思っても、やっぱりその一步を踏み出さずって、結構、勇気の要るもんなんだなと感じました。

幸い、いろいろ活動をしている方とはまだつながっているんで、そんなお声をいただくこともあるんですけど。でも、そう思うと、地域に社会教育人材となり得る方はすごく眠っていると思うんです。これからなおさら、皆さん元気なうちに会社を辞めるような方がいらっしゃったら、どんどんそういう方たちを取り込むものはあっていいと思うので、ぜひ、この表、この報告書ができれば、広めていきたいなとも思いました。

○委員

私は、資料4で、冒頭、委員さんが、一番上のフレーズで、「どれか1つでも当てはまれば、あなたも社会教育の人材です」と書かれてるのが、ちょっと堅いかなという形で御発言あったんですけど、私はこのフレーズがすごくしっくりきまして。

というのは、大体、社会教育人材といいますと、社会教育委員とか社会教育士の方を社会教育人材と今まで多分呼んでいたし、そういう方しか当てはまらないのかなというイメージが強くあったと思うんですが、いや、この中の「どれか1つ当てはまれば、私もあなたも社会教育人材ですよ」とこで言ってくれてるから、そういう意味では、硬い表現を下げる、ハードルを下げるような表現になっているのかなと私は感じました。だから、すごくすっきりしました。

○委員

全体の方向性としては、こういうことでよいのではないかと思います。

横のつながりも、非常に分かりやすくなっています。前回の各委員の発言を全部組み込んでいただいて、本当に大変な作業であったと思います。心から感謝申し上げます。

細かいところですが、1点だけ申し上げます。表の表面の「こんな人」、「人物像」の「学びの場

を作る」というところに、「想いを拾い上げる」という言葉があります。「拾い上げる」と言うと、何か上から目線みたいな感じもしないでもありません。そこで、例えば、同じ表に書いてあるように、「気づく」とか「想いを見つける」とか、そういう柔らかい言葉に代えたほうがよいのではないかと思います。全体的に、だいたい能動的に、自分で何かをしていくという意味の言葉が使われているのですが、「拾い上げる」というと、もちろん能動的ではあるのですが、上から見て拾っていくというイメージもありますので、むしろ、見つけるとか、集めるとか、気づくとか、どのような表現にするかはお任せしたいと思いますが、そんな形のほうがよいのではないかと思います。

あと、裏面の図は、A Iはすごいなと思いましたが、この形だと、少し文字に押されるというか、文字の圧が強過ぎる感じがします。例えば、この周りの文字が、先ほどご指摘があったような形で訂正されたとしても、やや文字の圧が強過ぎて、あまり頭に入ってこないようにも感じます。そこで、ゴシックで書かれていることを全部書くというのではなくても、代表的なものを書くだけでもよいのかもしれないし、少なくとも文字をもう少し減らしたほうが、逆に印象がもっと強くなるのではないかと思います。どれを削るかという点も判断が難しいですけども、印象としてはそのようなところです。

遅れて参加したため前段の議論を聞いておりませんので、重なっていたら申し訳ないのですが、以上です。

○委員長

無理なお願いを聞いてくださり、ありがとうございました。

何点か出てきましたので、一つずつ確認させていただきたいと思います。

まず、表面ですが、根っこにある考えを、「できるときに、できることを、できる人とともに」という案が出たわけですけど、こちらについてはいかがでしょうか。「する」じゃなくて、「ともに」でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○委員長

では、「ともに」に変更したいと思います。

委員から、根っこにある考えをこういう順番にするので、「こんな人とこんなことをこんなふうに」をひっくり返したらどうかという案も出たんですが、こちらはどうか。

○委員

どちらでもよいと思います。

○委員

根っこの「人」と「こと」が、上の左側の「人」と「こと」にかかるので、その順番に従ったらいいかということだったと思うんですけど、人物像が定義というか、こういう人だよね、こういう人が、次にこういうことをやっていくことがあるよねと、「人」が1段目にあったほうが読みやすいのかなという気持ちもします。

そういった意味で、さっき、根っこにある考えについて、皆さんの意見がありましたけど、この「とき」と「人」を、平仮名にして、上は漢字にするとか。順番が違うんじゃないかとならないとしたら、表の左側は「人」をそのままにして、根っこにあるほうを、「できるとき」を平仮名にする、さらに「できる人」も平仮名にしていくと、「ひと」と「人」は対応していないとも見えます。

○委員

細かい話ですが、法律用語では、「時」は時点を表して、ひらがなの「とき」は場合を表すので、意味が変わってきます。もちろん法律ではないのではありませんのですが、捉え方によっては意味が違ってくるので、今回は「できるときに」は、その「時」ということだと思いますから、本来は漢字の「時」が望ましいと思います。ひらがなではいけないのかと言われると、あくまで法律用語の話で、一般向けの話ではないので、どちらでもよいとはいえますが、漢字とひらがなでは意味が違うということは、念のため申し上げておきます。

○委員長

表の「こんな人」というときは、ある程度、人物像を固めたい定義みたいのがあるわけですが、「できる人」は、全てが当てはまってなくてもいいし、この下にありますが、その役割のグラデーションがあるので、できる人も、同じ人でも、ある人は作る人の場合もあるし、広げる人の場合もあるし、「こんな人」と「できる人」が違うんです。違うというか、意味してるものが。

と考えると、あんまり順番を意識して変えちゃうと、逆に混乱を招く場合もあるかもしれないです。

これは、このままの表の順番でよろしいでしょうかね。

○委員

いいと思います。

○委員長

では、それでいかせていただきます。

次に、「現場に足を運び、直接会う」の対になるやつ、会わないバージョンもあるよねという話です。例えば、今までの話し合いの中では、広げる人はこれをしてるねというのがかなり出てきて、挙がってきたかなと思うんです。一応、「心がけること」に「相手に合わせる」があるので、会いたがっていない人にぐいぐい行くのは、相手に合わせてないことになるので。

ただ、なかなか社会と関係性を断ってしまって、孤立したような人たちへのアプローチは、いきなり会いに行ったら、多分、逆に拒まれる場合もありますから、そうすると、情報発信を、最初は一方通行であってもし続けるとが、その方の学びの場を広げるチャンスにもなることはあり得るのです。

もうちょっと検討させていただければと思いますが、いかがでしょうか。「相手に合わせる」で吸収するという感じでもよろしいですかね。

(異議なし)

○委員長

では、今、その方向でいかせていただきます。

それから、同じ「広げる」の「身近なきっかけを言葉にする」の「小さな参画」に、誘い合いの話が。確かに、誘い合いは大きいですね。考えてみれば、私も何かに行くときに、行く相手とか、子供絡みの行事だったら、ママ友と、行く、行かないみたいな、そこから始まって、連れ出されてくなんて多いですね。

「送迎や見守り、誘い合い」を促す？「誘い合い」をどっかに入れられるといいんですかね。

○委員

誘い合いって、すごい大事だなと思っていて。ただ、その誘い合いとロコミが、私の中で割と結構一緒くたになってる。ロコミしながら、何か面白いことあるんだって、行ってみないという、ロコミと誘い合いが、私の中では。皆さん、分かりますかね。一緒に動作の中に入っているの、
「様々な発信をする」に誘い合いが入ってもいいのかなという気が、今、していたんですけど、い

かがでしょうか。

○委員長

確かにそうですね。これあるんだって、行ってみない？って、そうですね。

○委員

今、委員長がおっしゃろうとしていたことだと思うんですけど、ロコミだと、何となくイメージ的に、うわさ話的な、うわさが広まって、何かよさげだよと伝わってくるって感じだけど、今度、誘い合いは、軽めのお知り合いに直接声をかけてという、ちょっと主体が変わってくるかなという感じなので、ロコミの後に誘い合いも、その5文字を追加することで、単なるうわさに限らず、隣に座ってる人には声かけてみようよという具体性が高まるのではないかなと思いました。

○委員長

それでは、「ロコミ」の後に「誘い合い」を入れさせてもらう形でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○委員長

次に、「こんな人」の「学びの場を作る」の「思いを拾い上げる」ですが、委員から、やってみたいが形になってるというお話と。だから、思いというより、やってみたいという表現がすごく大事じゃないかということと、併せて委員から、「思いを拾い上げる」の「拾い上げる」は、ちょっと上から目線じゃないかというお話でした。

一応、動詞で終わらせてるんですが、「やってみたいに気づく」とか、「誰かのやってみたい」とか、「やってみたいに気づく」みたいな、それを見だしに持ってきちゃう。でも、そうするとそれを説明しなきゃいけない。

○委員

「拾い上げる」を「受け止める」にしたらいかがですか、キャッチする。

○委員長

その場合は「想い」のまま？「想いを」。

○委員

「想い」でいいと思います。

○委員長

「想いを受け止める」。「誰かのやってみたいに気づき、ともに作る人」。「やってみたい」は、この位置でいいですか。

委員の話の中に、「想い」だと分かりづらいんじゃないかみたいなお気持ちがあったらな思っ
て。どうなんでしょうね。

○委員

やってみたいというわくわくの場合もあるし、やってみてもいいかな、誰かが誘ってくれるんだ
ったらみたいな、もやもやだったりも含めると「想い」としてまとめて、「受け止める」という形。
やってみたいや、今のもやもやって、どういう日本語だと。

小学生の場合はやってみただけど、広く社会教育全般だと、例えば、退職した人がどうやって
社会と関わっていかうかしらとという戸惑い。

○委員長

程度ですよ。やってみたいってなる場合と、うーん、やってみたいけれどもみたいな。

○委員

どうしようかなみたいな。

○委員長

どぎまぎした感じですよ。では、「想い」のままでも。

○委員

どちらでも。

○委員長

いいですか。では、それで。

だから、「誰かのやってみたい」は程度で考えれば、もやもやな方も含めてやってみたいと捉えてもらえればと思います。

では、「想いを受け止める」という表現にしたいと思います。

○委員

そうすると、いろんなやってみたいが生まれる感じがしますね。

○委員長

皆さんのお話で私が気にしたところは、表面は以上ですけど、これはよろしいでしょうか。

(異議なし)

○委員長

裏に行きまして、今、意見が分かれてるので、その前に、ベン図の周りにある文字ですけど、事務局で裏のゴシックを全部拾って書いたら、こうなったという。

○委員

A I さんにゆだねたら、こうなっちゃった。

○委員長

なくすか、ゴシックのどれかを拾い上げて載せるかになるんですが、その辺はいかがでしょうか。何か、アイデアございますか。

○委員

ゴシックで書かれているを全部裏面に載せるのであれば、その中でさらに強調するものは、裏面の図ではゴシックにするとか、あるいはフォントを大きくするとか、要するに、メリハリをつけると思います。全体に普通のフォントで少し小さめにしたうえで、ぜひ強調したいというところは大きくして、ゴシックにするとか、メリハリがつくと分かりやすくなると思います。全部同じぐらい大事であるというのは分かるのですが、その中でも特に大事なものと、そこまでではないものをうまく区別すると、見た目もよくなるように感じました。

実際に作って見ないと何とも言えないかもしれませんが、あくまで印象だけの話です。

○委員長

どれを選ぶか問題、センスですけど。軽重をどうつけるか問題。

○委員

ワーキンググループの判断にお任せします。

○委員長

それは、一任いただければ、強調することでお任せいただいてもよろしいですか。

○委員

お願いします。

○委員長

軽重のつけ方が難しいかなと思ってはいますが、方法としては、最初に来たものを選ぶとか、あるいは「心がけること」だけ入れるとか、逆に「こんな人」だけ入れるとか、ちょっと考えます。

確かに、これはちょっと見づらいなと思うので、精選するということで。

○委員

フォント替えるだけで、大分見やすいです。今、これを生成A Iに読み込ませて、優しい感じで作ってって言ったら、すぐ作ってくれたんですけど、フォントが変わるだけでもかなり違う。

○委員長

それならフォントでやってみましょうか。

○委員

柔らかくなるよね。

○委員

柔らかくなります。

○委員長

黒ゴシックはやめる。

○事務局

今回は様々なバージョンを御準備して、一番しっくりいくものを選んでいただければいいかなと思います。

○委員長

では、そっち側の方向で、見やすさをまず追求することで、まだ3回ありますので、それでも多過ぎだとなったら、精選する道を選ぶということで。そのようにさせていただきます。

次、最後、どれか1つでも当てはまれば、あなたも社会教育人材ですという表現をするか、しないか。

これ、二分してるなと思うんですが、どっち側ですかね。

社会教育人材と言われたいかどうかかなと思うんです。委員のお話を聞いて思ったんだけど、会社で働いていた人が地域に帰って、何者でもなくなってしまったときに、そういう人は、私は社会教育人材じゃないかみいに思えるほうがやる気が出るのか、いやいや、こんなことだけなのに社会教育人材って呼ばれるなんて、そんなんだったら、もうやらないみたいな人が多いのか。どっちもいるんですよね、ちょうど半々。半々ぐらいの人が関わってくれてて。

ただ、これからの社会の中で、こちらとしても、どういう気持ちで向き合うことを期待するかみたいなのが、多分、表現に出るのかなと思うんですが。

○委員

今のお話を受けて、さっきから、キャッチコピーを考えていたんですが、表に戻ると、「作る、広げる、支える」は、「学びの場を作る人、広げる人、支える人」ですよね。この図の「作る、広げる、支える」に「人」という文字が入ったほうがいいと感じます。

そしてこの図全体が「学びの場」だと思うので、それも入れたほうがいいと思いました。

キャッチコピー、全然違うフレーズで、「こんなふうに社会教育の学びの場はつくられていきます」はどうでしょう。ぱっとひらめいたので、提案をしたいと思います。

○委員長

その場合、「作る人、広げる人、支える人」とする、ベン図の。それは「作る、支える、広げる」でもいい。

○委員

社会教育委員会の報告書だから、社会教育人材という言葉を使いたいんだけど、思い切って使わなくてもいいんじゃないか、そこで分かれると思います。その中間で、社会教育と人材を分けて、例えば「社会教育はこんな人材を求めています」とか、そんなニュアンスで、もうちょっと簡単な優しい言い方。「社会教育にはこんな人材を」とかであれば、「こんな人材を」は、作る人材なんだな、支える人材だなんて。

社会教育人材という言葉自体が、今回の諮問題でもあるから、なかなか離れられないんだけど、それを使わずに、かといって無視するわけじゃないところで分けてみる、中間の手段はいかがでしょうか。

○委員

個人的な意見になりますが、骨子の第1章の1で「社会教育人材の広域な捉え方」があるので、それからこの図が入ってもいいのかなと思います。図は横で示されていますが、これを縦表示にして、内容を変更するなどが考えられるかなと。

○委員長

図だけではなくて。

○委員

図の示し方は色々あるので、最適な示し方が出来ればいいかなと思います。

○委員

今の御提案は、非常に興味深いところです。社会教育人材とは何かということが、ここでの議論の出発点で、それに1年以上かけて議論してきましたので、一言でまとめるのは難しいと思います。

そこで、先ほど委員がおっしゃった、社会教育と人材を分けるというのは1つの手かなと思いますし、委員のおっしゃることもよく分かります。結局、社会教育人材をまずは念頭に置いて、そ

の人たちがこのようなことをやるのだというのが、うまく分かればよいかなとは思いますが、定義づけ自体がなかなか難しい。定義づけをしようとする、もう1年ぐらい欠けて議論しなければならないと感じもします。

本日、配られている資料の最初にある本委員会への「諮問内容」を見ると、確かに社会教育人材という言葉を使って、「つながる主体、つながる学び」のあり方を検討することになっています。結局のところ、本委員会で検討すべきことは、社会教育人材を中核にした掘り起こしと、それを核にしたつながりづくりにあります。社会教育人材は確かに重要な言葉ですけれども、一般の人にとってはすごく分かりにくい言葉です。ただ、社会教育人材が、社会教育をするだけではなくて、むしろ、いろんな人の思いを受け止めながら、一緒につくっていくという意味合いがあるのだということであれば、先ほど御提案のあったように、社会教育という言葉と人材という言葉に分けて、まさに掘り起こしとつながりが、この下の「作る、広げる、支える」につながっていくという形にした方がよさそうです。そのときに、一般の方にも分かりやすくなるように、例えば図に「人」と入れるとか、そういった工夫はあり得るのかなと思います。

そういう形で、社会教育人材という言葉が、そのまま抽象的な言葉として受け取らないような工夫をすることが重要です。これは、委員も委員も全く共通した認識ではないかと思います。要するに、分かりやすい言葉で、もっと分かりやすくできるのではないかと思います。社会教育という言葉と人材という言葉切り離しながら、うまく優しい言葉にするのもよいのではないかと思います。

○委員

社会教育人材について、この報告書の特に第1章で定義づけは必要ですが、そのときには、こういうキャッチコピーはなしで、図を示して、社会教育人材をこう捉えました、でよいのではないのでしょうか。県民に広く示すチラシでは「社会教育人材」と定義づけなくても、まさに委員がおっしゃるように、もう少し平易な呼びかけのものでいいような気がします。定義のときに出すものは、この3つの枠組みであって、「学びの場を作る人、広げる人、支える人」と整理し、しかも、それはグラデーションであるという説明がありさえすればよいと考えます。

その後、報告書の巻末の辺りに、県民に向けてのチラシ案として示し、そこでは必ずしも定義である必要はないかなと思いますので、「社会教育人材」とは使わずに、委員もおっしゃったような、「社会教育はこんな人を求めています」というタイトルでよいのかなとは思いました。

定義と、このチラシの役割をきちんと分けて考えていくべきだと思いました。

○委員

今の委員の御意見も受けながら、私が初めに「社会教育人材です」と書いてあるのが、ちょっと圧が感じますよと言った理由の1つに、私、市の社会教育委員等も長年やっております、1年ごとに、県からこういう報告書が教育委員会に出されましたよ。これを受けて、私たちもその思いを受け止めながら、市の中でも活動していきましょうねというのがなかなか伝わりにくいんです。市町の社会教育委員では、難しい言葉がいっぱい出てきて分からないですというところで、思考停止に陥ってしまうような報告の受け止め方が意外と多いです。そこを乗り越えて、自分事にしてもらうためには、どのような伝え方をしたらいいのだろうか。本日の審議の中だと、後段のお話にも関わってきてしまうことですが、そういう言葉遣いにこだわってしまったところがありまして。

その辺り、今、委員が言っていたような形で、広くたくさんの人たちへの理解を求めるときに使うものと、実施の報告書として教育委員会に提出するもので、使い分けをするという部分、ぜひ、進めていただけると、市、町、本当に現場で社会教育に取り組んでいる人たちも、自分のことかなと思しやすいのかなと思いましたので、御検討をお願いしたいと思います。

○委員

先ほど、委員から御指摘のあった、学びの場は私も大事なことだと思います。ただ、表題に入れるということ、なかなか入れにくいような気がします。そこで、まさに御提案いただいたように、この図の真ん中に「学びの場」という言葉を入れて、それを「作る、広げる、支える」という形にしてはどうでしょうか。中心に「学びの場」という言葉があってもよいのではないかと思います。どういう形で入れるかは改めて考えるとして、これはあったほうがよいのではないのでしょうか。お互いに学び、学び合う、そういうことが、人材を確保するという意味では非常に大事なことだと思います。

委員の意見に賛成します。

○委員長

私も、「学びの場」がこの表に出てくるわけですから、入れたいなという御意見、今、委員が指摘してくださいましたが、ベン図なんで、もう一個大きい丸を書いたところに「学びの場」とするとか、真ん中に書くとか、「学びの場」は入れられたらと思います。

それから、社会教育人材は、国の社会教育人材というと、社会教育士と社会教育主事を指すよう

なことになってくると、社会教育人材だけ言葉を書いてつけちゃうと、その後が伝わらなくなってしまふかもしれないので、委員が指摘してくださったような、社会教育は、さらに宇賀田先生も、こんな人を求めています。県民や、いろいろ難しいとおっしゃられる方にハードル下げて伝わるような表現がよいかなと思いました。

ですので、仮の案としては、「社会教育（学びの場）」と入れてもいいのかなと思ったんです。「社会教育（学びの場）はこんな人を求めています」、この表との連動性をつけていたらなと思ったんですが。

○委員

そこに一言、「今」って入れたらどうですか。「今、社会教育は」。これまでの社会教育じゃない、これからの社会教育で、「今」と一言つけてやる。

○委員長

「今、社会教育はこんな人を求めています」、いいですね。

○委員

これで自分事に。

○委員

また、違うことを言っちゃうかもしれないですが、諮問内容に立ち返ると、「つながる主体、つながる学び」なので、「つながり」という言葉も入るといいのかなと思って。「こんな人たちがつながって、学びの場が生まれます」とか、そういうアプローチの仕方もいいのかな。「こんな人たちがつながって、学びの場が生まれます」も、関連づけて、よりよいものにとという視点ではなくて申し訳ないですが、意見として伝えておきます。

○委員長

「今」は入れてもいいですか。委員。

○委員

いいと思います。

○委員長

次のときに、図の改定とともに、今、いただいた意見からはみ出すことはなく、どちらかの案か、融合案か、ワーキングで引き取らせていただいて、最終案、提示したいと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員長

そのようにさせていただきます。

それでは、8割方は決まったかなと思って。表は大体決まったので、後ろのほう、もうちょっとよりよいものを目指して、検討してまいります。

忌憚のない御意見、本当にありがとうございました。

それでは、押してしまっていて申し訳ないですが、(3)「多様な主体との連携の中でも、特に企業との連携を強化する方策」について、事務局が意見を整理してくださったので、まず説明をお願いします。

○事務局

では、説明いたします。お手元の資料5を御覧ください。

第8回で、皆様からいただいた意見を整理しまして、4つの項目でまとめました。

1、企業も社会教育の当事者として捉える視点。2、具体的な連携モデルと事例の提示。3、双方にとってのメリットの言語化。4、つながりを促進する仕組みの構築の4つです。

詳細については、資料からお読み取りいただければと思います。

本日は、この資料の5を基に、特に企業との連携を強化する方策についての確認と、新しい意見があれば追加をお願いいたします。

○委員長

こちらの資料5に関して、御意見等ございますでしょうか。

これは、特に企業との連携をこの間、話し合っていたんですが、あと残り40分になったんですけど、そちらのこととも関係しているので、追加あれば、次の話し合いでまた御意見いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○委員長

それでは、(4) 協議に移りたいと思います。

人と活動、情報の橋渡しを促進する仕組みや、きっかけを生み出すための方策についてです。

昨年度調査の分析で、活動情報の一元化と、スキルマッチングが十分でないことが明らかになりました。若者や学生を視野に入れた人と活動情報の橋渡しを促進する仕組みや、きっかけづくりについて御意見をいただければと思います。

この企業も含めたところで、御意見いただいても構いません。皆様、それぞれの活動などで気になっている部分について、御意見いただければと思います。

どたなか、いかがでしょうか。

先ほど、委員、お立ち場が変わって、いろいろ接する人が変わってく中で、ちょっと橋渡しというか、つながるとか、そういうところを考えたお時間も少しはあったかなと思うんですけど。3月までのお仕事の中でのことでもいいので、何かあればお願いします。

○委員

図書館で働いていたときには、とにかく図書館という場が好きな方が集まって、好きな方がみんな何かできないかということで、ボランティアグループが生まれたり、友の会さんができたり。その方たちがしてる活動がすごく大きかったんです。皆さん、そういう方はパワフルで、それこそお友達に声をかけるとか、そのお友達も近所の方、学生時代のつながり、どこか行ったときにたまに知り合った方みたいな感じで。

あと、特にボランティアをなさっている方は、自分たちの活動を求めている人たちを見つけるのがすごいまいなと思ったんです。例えば、聴覚障害のある方に、本の音読の活動をしてる方は、それこそ、スーパーでつえを突いてる方を見つけて、誘ったとか、そういうお話をされていて、自分たちの活動を欲しいと思っている人たちを見つければもうまいなと思ったんですが。

あとは、私、町内会の役員をやったり、PTAの役員をやったりという時期が、どうしても順番で回ってきてあったんですけど、そういうときに知り合う方たちからもたらされるいろんな活動は、とても大きかったなと思います。

でも、なかなか、自分で、さっきの資料4の表を見ても思ったんですけど、自分から行くってすごく勇気の要ることなので、その活動を最初に行っている人が、こんなことをやっているんだけど、参加してみない、一緒にやってみないって言うてくださることって、すごく大きいなと思ってました。

あとは、結構、企業さんから、社会貢献活動で何かしたいと思ってるんだけど、何かないですかというお話をもらうことがあったんですけど、案外、企業がやっているメインのことに、業務に関することじゃないと駄目なのかなと思っていたら、何でもいいですよと言ってくれるような企業さんもいます。

私もどちらかと言うと内向的な人間なので、なかなか人を誘うって勇気の要ることではありますし、特に、私たちが企業に出せるお金もないですけど、助けてくれませんかなんてすごく勇気の要る話で、そのつながりの、お互い、本当は相手は言ってくれたらやろうと思っている気持ちはあるのにつけて、お互いに思っていて出会えないというか、そういうところをすごく感じていたなと思います。

○委員

仕組みやきっかけを生み出すための方策で、今、委員もおっしゃってくださったのは、現場で起こる人と人との出会いです。直接出会って、思いを口にして、情報をその場でお互いに言い合う、誘い合うみたいな、一番、素朴な部分でのつながり。それによって心動かされて、やってみようかなというのは、とてもすごく現場で大事なことだと思うのと。

一方で、デジタルの社会において、ホームページや、SNS等の発信で、お互いがやっていることの情報交換をしながら、参加者を募っていく部分もどんどん進んでいくといいなと思うところですね。

今、まだ非公式ではあるんですけど、県内の社会教育士同士が、横のつながりを生かして、自主的な研修活動をししようという動きも広まっていたりするんです。恐らく、私たちの社会教育士の会以外でも社会教育に携わっている方たちが、例えば、人づくり何とかの人がこういう大人数の会をやったよとかというものが紹介されているのではないかと思います。だから、これなんかも見ていると、こんなすてきな会があったんだったら、もしかして知ってたら、行けたらよかったかなんて思うこともあったりするんで、こういう県内各地で行われている会教育的な研修ですとか活動を共有できるような、オンライン上のプラットフォームのようなものがもしあれば、興味関心のある人はそこへ行って、自分で情報を得て、自分が参加できる可能な部分においてはどんどん参加をして、その場に自分が行くことで、横のつながりがまたできて、今度は、回り回ってまた先ほどの、お一人お一人に声がけするような格好につながっていくことがもしできれば、理想的だなと思ったりするものですから、その辺りのオンライン上のつながりを、背中を押してもらうようなプラットフォーム、もしかして、県も社会教育委員会ですとか、そういうところで、県教委でリンクし

ていただけるとか、オンライン上のつながりのきっかけが構築できればなと思いついたところです。

○委員

1つは、企業とのつながり、連携です。社会教育に関わることが、企業にとってプラスになる。企業も、決して単なるボランティア精神だけでやっているわけではなくて、自分の会社の企業価値の向上につなげていく必要があります。企業にとってのプラス感を出せれば、いろんなことに協力してもらえます。決して、そこでもうけようとかそういう話ではなく、要するに、企業価値全体としてプラスになるということです。そのような前提で、社会教育という話が出てくれば、恐らく、いろいろな形で連携してもらえんと思います。

そのプラス感をどう出していくのか、実はその具体的ところが非常に難しいところではありますが、今回はいろんな形で社会教育人材の在り方を考えていますが、企業もぜひ一緒に人材づくりに協力していただきませんか、そのことによって企業価値も上がっていきますというようなプラスのメッセージが出せればよいのではないかと思います。

あともう一つの橋渡しとか、仕組みとか、きっかけをつくり出すための方策については、言葉の使い方に注意する必要があります。今だと、ボランティアという言葉も、面倒なことに無償奉仕をさせられるという意味でとられることもあり、なかなかハードルが高い言葉となっています。そこで、皆さん一緒にこういうのをつくりましょう、こういうことを一緒にやりましょう、あるいはお手伝いしてもらえませんか、というような優しい問いかけであれば、比較的つながりがつくりやすいのではないかと思います。

実際、ふだんあまり地域に関わりをもたない人でも、夏のお祭りを一緒に手伝ってくれませんかと言うと、意外とやってくれたりすることがあります。要するに、問いかけの仕方を工夫することが必要だと思います。これも抽象的な話ですけども、以上です。

○委員

企業さんとの連携で、前回、南小学校のみなみZZニアにお話をさせていただいたかと思うんですけど、企業さんにしてみると、社会貢献活動と捉えがちなところがあるんです。みなみZZニアだけではなくて、普通の事業にも企業さんが参加をしていただいたり、伴走支援していただいたりするんですけど、実際、参加していただいた方たちにお話を聞いたりすると、いわゆるホワイト企業、ブラックの反対、ホワイト。若手とかに来てもらって話をする場だったり、みなみZZニアで子供たちと触れ合ったり、地域の人にお話をする機会があったりすると、言葉は悪いかもしれない

んですけど、仕事が今まで、自分はねじの1本だみたいなところだったのが、自分たちの仕事ってこんなに役に立ってる、世の中の人に役に立ってるんだとか、子供たち、こんないい反応して、子供からしてみると、僕がやってる日々の流利的な作業だったり、流利的な仕事が、子供たちの尊敬のまなざしの的になっていたり、もう一回、自分の仕事を見直すきっかけになりましたというお話は多々いただくことがあるんです。

企業価値の向上ももちろんそうだけど、本来、自分たちが何のために仕事をしているかの原点に立ち返るものにもなっているんだなというのは、実感としてありました。

生活をする上でのお金を稼ぐのももちろんですけど、何のためにその職業を選んだのかに立ち返れるのかなというところでは、企業さんのフィードバックは、次に私がお話をする企業さんにお話をしていくと、なるほどね、ちょっと若手をそこに入れて、行かしてみようかななんて場にもなったりするので、そういった視点も大事かなと現場感では思っています。

あと、PTAの魅力化というか、うちの場合は、PTAは任意ですと言っている、98%か9%入るわけですよ。ずっとできる人ができるときにできることをとか、今の自分にできる形って何だろうと考えて、1つでもいいから、何かできることありませんかという問いかけだったりって、すごく大事だなと思っています。

それは、例えば、小学校1年生に入りたてのお母さんが、自分の子供と一緒に朝、門まで歩いていくときに、たまたま近くで一緒に歩いていた子を、一緒に横断歩道で渡ろうねって声かけるのも社会教育の1つだと思うし。朝、ごみ捨てに行ったときに、隣の子に、おはようって声かけるのも社会教育の1つだと思うし。どんなことでも、何かできるんじゃないという問いかけだったり、魅力化だったりすごく大事なんだろうなと思ったときに、さっきのこの図のところは、すごく広いいろんな人も見たときに、これ、私ができることじゃんって思えるところでは、すごくすてきなものになるのではないかなと思いました。

○委員

前回、コーディネーターなどの仕組みがあるといいなと発言しましたが、既に色々な団体や仕組みがあるので、それを活用していけたらいいなと思います。一本化しきるのは難しいと思いますが、ここに行けば何か情報が得られるという場所を作るのは有益だと思います。

また、企業と繋がるのはどうしたらいいのか、悩んでしまうところですが、例えば、既に協定を結んでいる企業と一緒に何かをやるとか、既存のものをどんどん活用していくのも、一つの方法かなと思います。

○委員

実は、私も、先ほど委員がおっしゃったように、この3月でNPO卒業しまして。同じような思いで、今、ここに参加させていただいております。

企業との連携というお話になるんですけど、そういうわけで、今は卒業生ですけど、NPOをやったときの1つ事例をお話できればなと思いました。

一度、企業のCSRの事業と協働しようということができまして、たまたま協働したお相手が、本社が日本にない世界的企業なセキュリティ会社で、大きなところと組んでしまったものですから、桁違いの事業予算を頂いてしまって、私たち十数人で動いてる母親経験のある女性のグループだったものですから、そのバランスがものすごく悪くて、そんな大きなことが我々にできるんだろうかと悩みながらも、せっかくのお話なので挑戦してみようということでやった結果、思いがけない大きな成果につながって、今となっては、本当にそこ頑張って乗り越えて、チャレンジしてよかったなと思ってるところがありました。

思い返してみると、普通ではあり得ないような展開がどういう種でできたのかなと思い返してみると、本当に偶然に偶然が重なった御紹介が元だったんです。ですので、先ほど委員がおっしゃったように、どんな場でも、私たちがこんなことやりたいとか、こんなことやってきましたと細かく伝えていくことによって、その細い糸が思いがけないところにつながって、そんなことになる場合もあるよという1つの体験談をお話したいと思いました。

それは、アナログなつながりだったんですけど、委員がおっしゃってるように、もはや、プラットフォーム作る、オンライン上でのつながりももちろん欠かせなくて、そうしてみると、資料5を通して見ると、委員がおっしゃったように、4番の相談窓口の一本化がポイントなのかなと感じました。

おっしゃるように、焼津市でも市民協働センターとか相談窓口が既にありますので、ただ知らない。求めている人がそこにたどり着けないところが問題なのかなと思うと、それを作ろうということではなく、ここには一本化と書いてあって、整備が必要であるという言い方なので、まさにそのとおりだと思っていて。それをどう広報していくのか、使ってもらうために、世の中にこういうものがあるよとつないでいくのか。つなぎという言葉も今回、キーワードの1つに出てると思うんですけども、4番の相談窓口の1本化、それも広報が最終的に、今、1つの結論にたどり着くと、そこかなとは感じました。

○委員

どの組織にも、どの会社にも、人とつながることを仕事にしてる広報という人たちがいるので、そこを窓口にするようなことをすれば、以外と簡単につながりはつくれるのではないのでしょうか。自分ではつながりは思い当たらないけど、広報に1つ相談すると、あの人は知ってるよとか、そういうことになるのではないのかなと思います。

○委員

今回の諮問のキーワードである「つながる学び」が、社会教育がつながる学びの助けになっている現状はあります。若い教員たちがとても増えているので、できればということですけど、マッチングアプリのように、「こんな活動をしたい」と入れると、ぱっと出てくる。あと、企業さんとか、個人の社会教育委員さんだったりが出てきて、活動内容や連絡方法等がアプリ化されたらいいなと。若者に聞いたんですけど、もしこういうのがあったら、ぜひ、授業でも使いたいですという話が出てきましたので、県の社会教育委員会でもあったら、とてもうれしいなと思います。

そして、富士市、例えば市の教育委員会にもいろんなチラシがあって、そこから学校に届きます。企業さんがいろんな魅力ある活動を学校に向かって、やりませんかと投げてくれます。そういうのを集めるだけでも、一覧のリストができるのではないかなと思います。教育委員会には届いているかと思うので、そのチラシを集めるだけでも、そのリスト化の一助を担うのではないかなと思いました。

○委員

私も、実は4月に、退職はしておりませんが、職場は変わりまして、磐田西高から浜松商業高校に異動になっております。磐田市もそうでしたが浜松市も地元の生徒を育てたいという思いをすごく持っていていていて感じます。企業さんや市役所さんや商工会議所さんとか、たくさん来ていただいて、ぜひ連携をしたいとか、いろんなこと一緒にやりましょう、あるいは授業の助けをしてくれるようなことがたくさんあって、本当にありがたいです。

1つ、オンライン上のプラットフォームの話がありましたが、県内商業教育の広報の一環として、商業教育研究会のホームページへ中学生にアクセスしてもらうために各高校のInstagramの記事にハッシュタグで「商業教育研究会」と入れると、その研究会のホームページに飛ぶようにという仕組みをつくったという報告がありました。ハッシュタグで社会教育とキーワード入れることで、例えば、市のホームページの広報に行くとか、そんな仕組みができると開催のお知らせなどが集約

できるかもしれません。

担うところは、市の広報課とか社会教育課のようなところでしょうか。そういったものができていると、例えば市内の高校生も、ちょっとやってみようかというときに、そこをのぞきに行って、自分でも活動できますし、学校でも、そこを見に行くと何かあるかもねと広報ができるので、ありがたいツールになってくると思いました。

○委員

私も、今、皆さんの話を聞いてて、それこそ、企業版のふるさと納税を募集するサイトがありますよね。各市、それぞれ自分たちがやりたい事業を、お金がないけど、こんなことしたい、目標額何千万と言って、それに企業が応募してくださると、その分、企業は節税になるみたいな。静岡市でも幾つかやりたいけど、お金のない事業というときに上げてたんです。それこそ、静大の情報学部さんとか、産学連携とかでそういうアプリなりサイトをつくってもらって、そこに求めている人と、何か手伝いたい企業がマッチングできるようなプラットフォーム、サイト、そういうのができてくださいと本当にいいなと。

こういうのは、ただ作っても、事例が集まってこない、本当に作っただけになってしまうので、枠をつくってもらえたら、あとはどれだけそういうところにどんどん皆さんがそれを登録して、それを生かしてと、どれだけ使ってもらえるかだと思うんですけど。プラットフォーム、ぜひあると、すごく願う側も、企業も、または個人のグループさんも、PTAも、何かしら求めているもの、やりたいものをマッチングできて、すごくいいなと思いました。

○委員

きっかけを生み出すための方策で、1つには、企業との連携が入るのではないかと思います。今、企業も、持続可能な企業を目指し、アクションプランをつくって、それぞれの企業、どうしたら生き残れていくのかなというところをやっております。

その中の1つに、危機管理をどのようにしていくかという中で、例えば、防災訓練を年2回やって、その企業の中で、いかに設備も守るか、人の命を守るかという形でやっております。それも、企業の内部だけでやればいいということではなくて、今は地域全体で、企業人が地元に戻っても、地元の人と一体となって防災に取り組みましょうという形で、その取組、今やられていますので、そんなところをきっかけに、これからこういう情報の橋渡しをする一つのきっかけになっていくのかなと考えています。

先ほど、委員の意見にもあったように、情報発信の仕方で、皆さんがいかにしたら興味を持っていただけるかなというのは、こんな情報発信をされたら、私もできそうかなという方法で情報発信するのが大切なのかなと思います。自分事として考え、いや、ちょっと参加してみようかな、やってみようかなという形の情報発信ができればいいのかなと思います。

○委員

皆さんのお話を聞いて、オンラインのプラットフォームであるとか、非常に有効かなとも思います。以前、私が報告をさせていただいた、フューチャーセンターから発生した、I C L a という場所をつくったときに思ったことですが、あのときは、学生がオンラインプラットフォームを運営しながら、一方でリアルの方があって、そこに行くと誰かに会える。しかも、オンラインでつながってる。2つのコミュニケーションツールがあることによって、学生や社会人などいろんな人たちがつながっていったなと思いましたので、リアルにつながる場も必要なんだなと思いました。

静大の例で申し上げますと、今月は学生のサークルや団体が新入生勧誘の時期で、これまでは各団体がそれぞれでイベントをやってたんですけど、団体が集約して、一緒に勧誘をやる対面イベントを学生たちが企画・実施しました。20団体ほどの学生サークルなどを取りまとめる団体ができ、それを大学が支援して、学内でイベントをやりましたが、昨年60人ぐらい来たのが、今年は130人超えて、先ほど、委員が、ボランティアへのハードルというお話があったんですけど、学生からは、ボランティアをやりたいという声も多く聞きます。

社会貢献とかそういう活動に対する若者の動きは随分変わってきたなと思うので、大人の仕組みのプラットフォームに若者や学生に参加してもらおうというよりも、若者や学生の動きや思いを大人側が支援する方向もいいのかなと思いました。

○委員長

今、情報発信、すごくやんなきゃというので、うちの大学も私立で大変な中、今Y o u T u b e のショート動画を広報担当の若い人がどんどんつくっているのですが、それをわざとインスタに上げない。なぜかという、学生はみんなインスタでつながっている、そこに出た子が、インスタ側に上げちゃうと、友達が見まくって、いろいろ言われるの嫌だから上げないでくださいと言われるからだそうです。ショート動画で、本当にすぐつくってくれて、文字とか入って。だから、結構つくってます。視覚に訴えるもので、いろいろやってる。対象というかで、作り方もいろいろ工夫する必要があるんだなと思います。

箱だけつくって入れてくださいというのは、やらされ感があるからなかなかやらないけど、段々できて、草の根的なものは、同じもの作ってるのに、共感呼んで膨らんでくみたいところがあるので、そこがうまく混じり合って、さっきのクラウドファンディングではないけど、うまく情報が集約できて、ただ信頼できるところから発信できるものがつくるといいのかなと、皆さんの意見を聞きながら感じました。

貴重な御意見、本当にありがとうございました。これらを基に、また、この討論の結果はまとめていきたいと思います。

まだ、御意見もあろうかと思いますが、また思いついたアイデア、キャッチフレーズなどあったら、ぜひ事務局にお願いしたいと思います。

お時間になりましたので、最後に、今後のスケジュールを共有したいと思います。

次第の資料の最後のページ、お伝えしてありますが、本日9回、残り10回、11回。12回はできて、これでいいですかという確認になります。極力、ワーキングと事務局で案つくっていきたいと思いますけど、また少し、皆様に御協力いただくこともあるやと思いますが、そのときは御協力いただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、本日は、これで協議を終了いたします。

事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局

本日も皆様、ありがとうございました。

本委員会の会議録につきましては、また本日から遅くとも3週間後までにメールで皆様に送らせていただきます。御自身の御発言の部分を御確認いただきたいと思いますので、お願いいたします。

次回の第10回委員会は、年間スケジュールのとおり、6月25日木曜日。場所は今回と同じ、この第1会議室となります。

先ほど、委員長からもごさました、次回からは、報告書の下書きを皆さんに読んでいただくということがあろうかと思っています。

その他、御不明な点ございましたら、いつでも事務局まで御連絡ください。

○委員長

以上をもちまして、第9回静岡県社会教育委員会を閉会いたします。

本日は、ありがとうございました。